歴史総合：戦時下の社会における問題点は何だろう？

（　　）年（　　）組（　　）番　名前（　　）

資料１　のぼり



資料２　のぼりの写真



資料１　和歌山県立文書館所蔵　榎家文書
https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/monjyo/archive/kyouiku/shussei/index.html
資料２　個人蔵

問１.資料１はどのようなとき使われたのでしょうか。

例　戦争へ向かう兵士を見送る際に掲げられた。
出征を祝うときに使われた。

問２.資料２の人物はなぜ笑顔なのでしょうか。

例　出征することは名誉なこととされたから。
戦争を楽観的に捉えていた。

今回のテーマ

出征に関する記録から、戦時下の社会の問題点を考えよう。

問３.解説シートや教科書を参考に、日中戦争が始まるまでの歴史的背景を記した以下の文章の空欄①～②に当てはまる語句を答えましょう。

1920 年代の日本は不景気に見舞われ、国民の多くが(①　政党　　)政治や財閥への不信感を募らせたのち、(②　軍部　　)の政治への影響力が高まった。(②)の主導により日本は、中国への干渉を強めていくなか 1937(昭和 12)年、日中戦争が始まった。

問４.日中戦争開始後の日本と中国の人々のようすを、解説シートや教科書を参考に説明しましょう。

日本
中国の都市を占領するたびに祝賀会が行われ、マスメディアで戦争を支持する論調が展開されるなど、社会全体で戦争を支援する風潮が生み出された。また、反戦論者は弾圧された。

中国
日本軍との戦闘により、一般住民を含む多くの犠牲者を生んだ。

資料３　戦時下の女学生の作文　※読みやすいよう適宜字体や文体を整えた。

兄さんの出征
兄さんを先頭に私たちは列をつくって、市駅へ向かった、市駅へ着くと見送りの人でプラットホームはいっぱいであった。間もなく電車が来た。兄さんと、お父さんとは電車に乗った。兄さんのお友達の人が兄さんの手を固く握って「しっかりやってくれ」と言っていました。兄さんは、大勢の人にとりまかれているので玉のような汗を流していました。私は発車にはまだまだ時間があるようにと願っていたのに、電車は私達の心を察してくれないのか、動き始めました。見送る人一同は「万歳万歳」と旗を破れそうにふりました。「しっかりやってくれよ！」「みやげには支那人の首を沢山……」等とロ々に言ってはげましてくれます。電車は激励の声を後にして走って行きます。兄さんの顔はだんだん小さくなって行きました。私の眼には涙がにじんできました。私は考えました。兄さんは今日から軍服を着て一人前の兵隊になるのである。私はその軍服を着た姿を一度でよいから見たいと思いました。今、兄さんは、まだ戦場に出ていないで〇〇(地名か)におります。私は「ちりんちりん」と鳴るりんの音を聞きつけては走って行って新聞、号外を見ます。そして新聞に立派な戦死を遂げた人の話や、行いを見ては兄さんの事を思い出します。ああ、私の兄さんも、あの勇ましい兵隊さんと一緒に働いているのだと思うと、何だかある崇高なものに胸が包まれたような気がします。

出典:和歌山県立文書館寄託　岩崎家文書

問５.資料３を記した人は日中戦争に対してどのような感情をもっていたのか、想像してみましょう。

資料４　出征時の和歌山市駅



出典:和歌山県立文書館所蔵
和歌山県営繕技師増田八郎資料

資料５　戦時下の女学生の作文　※読みやすいよう適宜字体や文体を整えた。

挙国一致
正義を愛し、平和を喜ぶ日本人であるが、とうとう戦うべき時が来た。東洋平和の為、全世界の平和の為、いやしくも日本人と名の付く者は、老いも若きも真剣に働かねばならぬ時が来た。魂の炎は燃え上がった。真の非常時だ！戦の火蓋は切って落とされたのだ。(中略)
その銃後を固く守らなければならないのは、やがて学校を巣立ち行く私達乙女である。何という幸福な、そして何という重大な務めであろう。例え銃を手に戦地に行かなくとも、女性には立派な銃後の務めのある事をよく知らなくてはならない。(中略)
このありがたい神聖な帝国日本に生まれた事を心から感謝し、少しでも御国のために役立つよう、歩武堂々と挙国一致、時難をのり越え、堅忍不抜の実行力をもって、この光輝ある日本をますます光輝あらしめようではありませんか。

出典:和歌山県立文書館寄託　岩崎家文書

問６.資料５では、女性にはどのような役割があると記していますか、文章中から抜き出しましょう。

「銃後を固く守らなければならない」
「銃を手に戦地に行かなくとも、女性には立派な銃後の務めのある事」

資料６　戦時下の女学生の作文　※読みやすいよう適宜字体や文体を整えた。

遺骨を御迎えして
外は酷い木枯らしだ。ピューッと凄まじい音をたてながら雨戸を叩き樹木をゆさぶる。蒋介石はこの木枯らしをどのような心持ちで聞いているのだろう。と、ふと風の音に、こんなことが思われてきた。首都南京を陥された今日、未だに長期抗日だの、戦はこれからだのと大きなことを言っている。戦始まって以来皇軍の向かう所敵なく、我精鋭は破竹の勢いをもって、支那全土を正しきものにするため、前進を続けている。(後略)

出典:和歌山県立文書館寄託　岩崎家文書

問７.資料５,６を記した人は、それぞれどのように戦争を正当化しているでしょうか。

資料５
東洋平和、全世界平和のため。

資料６
中国全土を正しきものにするため。

今回の問い：どのようにして戦争を正当化する社会が形成されるのでしょうか。

例　政府や軍が、メディアや学校教育などを通じて、戦争は「平和や国を守るため」と広め、国民に戦争は正しいこと、必要なこととして受け止めさせて、形成される。